

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0870200938
法人名	株式会社 東海荘
事業所名	グループホーム 東海荘ひだまり
所在地 (電話番号)	茨城県日立市鹿島町2-12-9 (電話)0294-23-3511

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年10月7日	評価確定日	平成20年2月5日

【情報提供票より】(19年 9月 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	RC 造り	
	4 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(9月 現在)

利用者人数	12 名	男性	3 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	59 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	日立整形 ・ 日精歯科 ・ いばらき診療所
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地の中心部にあるホームで、駅や商業施設、公共機関からも近く、近隣には公園もあるため、利用者が外出しやすいばかりか、家族が面会に訪れやすい環境となっている。管理者は夫婦でホームの運営からケアの提供まで積極的に取り組んでおり、その姿は職員にも確実に伝わっている。居室は全室とも日当たりが良く開放的で、利用者の笑顔も多くまた家族の来訪も多い。利用者のほのぼのとした雰囲気が、そのままホーム全体を包み込む雰囲気をもったグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家庭的な共用空間づくりのため、玄関先に草花を多く設置し「ひだまり菜園」とよばれる野菜づくりにも取り組み、できあがった野菜が食卓を華やかに演出している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットごとに全職員が参加して自己評価を行うことが、今後の課題として明らかになった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	近隣住民や家族を巻き込んだ会議の運営に心がけており、活発な意見交換が期待できる運営推進会議となっている。今後は市役所との連携をどう図っていくかが、このホームの課題としてあげられる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を立ち上げ、ホーム行事の後に開催しているため、多くの家族が参加できるよう配慮されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム管理者はホーム開設前から同地域で暮らしていることもあり、近隣住民との連携が図られている。近隣住民にもホームに協力する雰囲気が構築されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営者が師と仰ぐ方から指導や助言を得て設立されたホームであるため、そのときに得た知見をもとに運営理念を作成している。	○	ホームの目指すケアを示している運営理念であるから、つねに利用者や職員が目にする事ができるようにホーム内に掲示しておくことが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週2回行われるカンファレンスなどとおして、理念の理解を深める取り組みが全職員で行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム設立前から経営者は同地域で生活していたため、近隣住民とのつながりは継続的に行われている。地域の公共機関への働きかけも行われている。		今後も引き続き、近隣の公共機関へ働きかけ多くの方に来訪してもらえるホームづくりに取り組んでいただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価を受けて改善に取り組んでいることが確認できた。	○	自己評価はユニットごとに全職員で取り組んでいただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の頻度で開催され、会議のメンバーの協力を得ることができていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所へ働きかけは行っているとのことであったが、市役所からの反応が得られることが今後の課題であると感ずることができた。		これからも積極的に市役所へ働きかけて行くことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1度広報誌を作成し、家族へ送付している。家族会を立ち上げ、報告の機会もつくっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、特に大きな要望などは挙がっていないが、家族会で意見を得る機会をもっている。苦情に対応するマニュアルが整備されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に対し、特に何らかの取り組みがされているわけではなかった。	○	人材を確保する観点からも、職員の離職を防ぐ取り組みをホーム全体として検討していただきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回評価を受けて研修へ参加する機会をもつように取り組み、その記録も整備されていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、市内外のグループホームとも連携を図り情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用やお試し利用などをとおして、円滑に利用開始につながられるよう取り組みがなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対し尊敬の姿勢を忘れずにケアに取り組んでいるが、利用者の状態悪化に若干のとまどいを感じていた。		利用者の状態が悪化したとしても継続して尊敬の姿勢でその状態にあったケアを保てることに期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を入所後も継続して確認する姿勢が感じられた。	○	アセスメント結果がいつでも確認できる状態で管理することが望ましい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別具体的な介護計画を作成し、利用者の自立を目指す計画が立てられていた。	○	介護計画の保管を介護支援専門員に委ねるのではなく、必要に応じて全職員が確認できることが望ましい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	週2回行われるカンファレンスで定期的に介護計画の見直しに取り組んでいる。	○	介護計画と同様、その保管方法の再検討をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が付き添えない通院の対応など、状況に応じた対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の往診できる医療機関と連携し、利用者の医療面の不安軽減に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対するケアの方針を、協力医療機関と共同でマニュアルを作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報使用同意を取り交わし、プライバシー保護に努めている。	○	利用者の居室を開けた際、排泄行為を直視することがないようポータブルトイレの前にパーテーションを置くなどの配慮に期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日課を優先するのではなく、利用者のペースを尊重したケアに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望を受けて献立を作成し、好みの物でない物が提供された場合、円滑に代替え食が提供できるように取り組んでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	りんご湯やゆず湯など、季節感が感じられるよう入浴の楽しさを演出している。	○	入浴できる日や時間帯が職員の勤務状況によって固定化されているため、利用者が希望するときに入浴できるよう配慮が求められる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態が変化している状況で、利用者一人ひとりが役割や楽しみごとをもってもらえるよう、試行錯誤している状況である。	○	利用者の状態像を一面的に判断するのではなく、アセスメントをとおして、少しでも「できること」を見いだす努力に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食や買い物など、自由な雰囲気外出をすることができている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけてなく、利用者が外出時は職員が付き添うことで出入り自由となっている。		利用者のみであっても自由に屋外に出られることについて、職員間で話し合いをもつことが望ましい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練などを行い、非常時には近隣住民からの協力体制がとられている。		大規模災害に備え、食料や医療品の備蓄について準備しておくことを検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は日々記録され、食事制限がある利用者には協力医院の医師の意見をもとに食事メニューが検討されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回評価を受けて玄関周りに草花を配置し、リビングは家庭的な印象がもてるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者それぞれに生活用品が多く持ち込まれ、利用者にとって快適な居室となっている。		